

4. 家庭生活等についての相談

◇子どもの叱り方、ほめ方

【Q】 小学校3年生の男子の保護者です。子どもが言うことを聞かないと、イライラして叱ってしまいます。最近は、叱っても効き目がない場合が多く、もっと強く叱ってしまいます。どうしたらよいのでしょうか。子どもの叱り方、ほめ方について、よい方法を教えてください。

【A】 叱り続けることで、子どもは「何をやっても認めてもらえない」という感情を持つようになります。反対に、ほめることで「自分は大切にしてもらっている」と感じ、様々なことに意欲を持って取り組むようになります。「子どもは様々な経験や成功体験を積むことによって、少しずつ成長していく」という考えを持って接し、関わり方を工夫することで、叱るよりもほめる機会を増やせると考えます。

次のようにお子さんに接してみてもいいでしょうか。

①叱るときは行為について叱りましょう。

「本当にダメな子」「なんでできないの」「他の子はちゃんとやっているよ」など、人格を否定するような言葉を投げかけないようにします。このような言葉は子どもの心を傷つけ、人格形成に大きな影響を及ぼします。叱るときは怒りの感情を抑え、「次は、時間を守ろうね」のように肯定的な表現や、「約束を守ってくれれば、お母さん、うれしいな」のように、うまくできたときのイメージが湧くような表現で間違いを正してあげましょう。

②手助けをしながらほめましょう。

子どもが順を追って自ら行動することができるようにするため、ホワイトボード等に時刻とやるべきことを順番に書き、予定を視覚的に伝える方法があります。予定を見ながら行動できるような状況をつくり、できたことをほめていきます。予定通りできなくても、「ここまではできたね」「どうするとよかったかな」と声をかけるとよいでしょう。テレビやゲームなどでも、終了時刻を子どもと話し合ってから決め、終了10分前に声をかけたり、タイマーをセットしたりするなど、成功させるための手助けをしてみてください。

③「認める」ことで「ほめる」ことに繋げましょう。

高い評価をいつもする必要はありません。「おもちゃを片付けられたね」「宿題が終わったね」「最後まで書けたね」など事実を承認する声かけでも、見てくれているんだ、関心があるんだという気持ちになり、自己肯定感が高まっていきます。そのような言葉を家庭に満たしながら、できたときに心からほめてあげてください。時間がかかるかもしれないですが、自然と叱る数は減っていくことでしょう。

川崎市立教育センター分室(リバーラ)では、教育に関する様々な相談をお受けしておりますので、ご利用ください。